

本校の概要

北海道伊達市は、仙台藩一門で現在の宮城県亶理町周辺の領主であった伊達邦成が、明治初めに家臣とともに集団移住して開拓された町である。人口は約3万人のコンパクトシティであり、行政・福祉・サービス業はさることながら、農業・漁業などの第一次産業もさかんである。市史としては北海道開拓史として多くの資史料をもつ一方、近年は縄文遺跡群の発掘調査により、約7000年前の太古から人々が生活していたことがわかり、市内にある史跡「北黄金貝塚（縄文早期～中期）」からは多数の人骨・石器・骨角器などが発掘されている。特に儀礼の場としての「水道遺構」が発見されている点は、道内でも特筆すべき貴重な文化遺産であり、これらの史跡は「世界文化遺産」への登録が待たれている。

また自然環境の面において伊達市は、寒さ厳しい北海道の中にあつて、最も温暖な気候に恵まれた地域にある。町全体が南方に広がる噴火湾に向かって緩やかに傾斜していることから、太陽の当たる時間が長く、冬でも積雪量が少ないのが特長である。校舎からは北に有珠山や昭和新山、遠くに羊蹄山や駒ヶ岳など雄大な自然を眺望することができるほか、洞爺湖有珠山地域はユネスコから「世界ジオパーク」の認定を受けており、住民自らが火山マイスターとなって防災や地域の魅力を発信するなどの活動が行われている。2000年には有珠山噴火を経験したが、人的被害が最小限に抑えられたのも、専門家と地域住民による歴史の積み重ねや日頃からの協力体制があつてのことである。このように近隣市町村を含め伊達市は、物的・人的にも質の高い教育資源が豊富にあるほか、道内有数の自然観光エリアとして、多くの人でにぎわっている。

このような環境の下、本校（北海道伊達緑丘高等学校）は、「伊達市に進学校を」との地域住民による熱望から昭和58年に開校され、今年度（平成29年度）で創立



校舎外観



史跡・北黄金貝塚公園

35 年を迎える全日制課程・普通科 4 間口の道立高校である。開校以来、“文武両道”を合い言葉に、学業はもちろんのこと、学校祭や各種ボランティア活動、強歩大会などの行事や部活動にも力を入れており、体育系・文化系ともに全道レベルの実力を誇っている。なかでも学校祭では草創期からクラス単位での質の高い「合唱」や「演劇」の発表が今も継続されており、文化の薫り高い校風は今も伝統として根付いている。

しかしながら、全国的な少子高齢化及び都市部への人口流出といった傾向はこの地域も例外ではなく、本校への受験者数もしだいに減少の一途をたどるようになった。さらには学区再編により、伊達地域のとくに高い学力層の生徒たちが、隣接する室蘭市内の進学トップ校を（入学枠の制限なく）自由に受験できるようになってから、国公立大学や難関私立大学への受験・進学者数が減ってきたことは否めない。現在は約 4 割の生徒が室蘭市・洞爺湖町・壮瞥町・豊浦町など近隣市町村から広範に生徒たちが通学しているが、「落ち着いた校風のもと、安心して学校生活を送りたい」「学習が苦手でも親身に指導してくれる」などの理由から本校に入学する生徒も少なくない。一人ひとりの居場所（活躍できる場・他者が認めてくれる場）がある穏やかな環境の中で、生徒たちは健全で調和のとれた、豊かな高校生活を送っている。

このような社会の情勢変化に伴い本校は、開校以来の良き伝統を継承しつつ、生徒や保護者・地域の多様なニーズに応えるとともに、『チーム緑高一夢×仲間一』をスローガンに、一丸となった学校づくりに取り組んでいるところである。

□開 校 昭和 58 年 全日制普通科 4 間口

□校 訓 創造・礼節・剛健

□生徒数（平成 29 年度）

	1 学年 (第 35 期生)	2 学年 (第 34 期生)	3 学年 (第 33 期生)	合計
男子	70	71	76	217
女子	61	63	85	209
合計	131	134	161	426

□進路概況（平成 29 年 3 月卒業生）

校種	国公立 大 学	私 立 大 学	短 期 大 学	専 修 学 校	公務員	民 間 就 職	合計
男子	3	19	0	24	3	6	55
女子	2	20	8	40	2	12	84
合計	5	39	8	64	5	18	139
割合	進学 83.5%				就職 16.5%		

(※卒業生数全体は 146 名、上記は 3 月末時点での状況。未定者は 7 名である。)

第1章

研究主題の設定

— 生徒の現状と地理歴史科における課題 —

1 「北海道学力等実態調査」の結果より

本校生徒は、素朴で礼儀正しく落ち着きがあり、学業と部活動とを両立させた心身ともに健全な学校生活を送っている。また、誰とでも公平に接することのできる心優しい生徒が多く、対人関係についても比較的良好である。

一方で学習面については、決して低い学力層ではないものの、全体として労苦を避けたがる傾向が強く、向上心をもって高い目標にチャレンジしようとする意欲に物足りなさを感じられる。教師から指示されたことには素直に取り組むが、自ら意欲的かつ能動的に学ぶ姿勢が十分とはいえない。

平成 27 年度実施の「北海道学力等実態調査※1」の結果（平成 27 年度 1 学年の生徒を対象）では、高校入学前との意欲の変化について、「学習意欲が高まった」と回答した生徒が 46.5%、同様に「授業以外の学習時間が増えた※2」と回答した生徒は 36.8%といずれも全道平均を下回っている。また平日の家庭学習時間については、「ほとんどしていない」が 49.0%と全道平均を上回ったほか、1 時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒の割合も低い結果となっている。

◇入学前との意欲の変化

	高校入学前に比べ学習意欲が高まった	高校入学前に比べ授業以外の学習時間が増えた
本校	46.5%	36.8%
全道	66.7%	57.0%

◇平日の家庭学習時間

	ほとんどしていない	1 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	2 時間以上
本校	49.0%	37.4%	9.7%	3.8%
全道	28.4%	40.8%	20.9%	9.8%

こうした全体傾向に対して、同調査における「地理歴史・公民科」の学習意欲に

※1 「北海道学力等実態調査」… 北海道教育委員会が平成 17 年度から道内の高等学校で実施。国語・数学・英語の学力テストのほか、学習意欲・習慣等に関するアンケートを行う。

※2 この学習時間には「読書」も含まれる。

については、「地理歴史・公民の勉強が好きだ」、「地理歴史・公民の授業の内容はよく分かる」という設問に肯定的回答をした生徒の割合が、ほぼ全道平均と同じ（もしくはやや高い）結果となった。

また、「地理歴史」「公民」にかぎらず、あらゆる教科の授業や学校行事等の教育活動を通して「高校入学前に比べ諸外国の人々との交流、異文化や生活習慣を知ろうとする意欲が高まった」という設問については、肯定的回答が全道平均をやや下回ったのに対し、「そう思わない」と回答した生徒が 34.2%にのぼっている。

◇地理歴史・公民の勉強が好きだ

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
本校	23.1%	33.3%	28.0%	15.6%
全道	25.2%	37.4%	18.1%	18.7%

◇地理歴史・公民の授業の内容はよく分かる

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
本校	21.0%	44.6%	25.7%	8.8%
全道	18.7%	46.5%	26.5%	7.1%

◇高校入学前に比べ諸外国の人々との交流、異文化や生活習慣を知ろうとする意欲が高まった

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
本校	13.5%	23.2%	29.0%	34.2%
全道	15.5%	28.9%	31.6%	24.0%

このように本校生徒は、基礎的学力は概ね定着しているものの、学習意欲や学習時間については全道平均よりも低い傾向にあることがわかる。また、グローバル化や価値観の多様化が進行する中、広い視野を持ち、学びを深めようとする態度や意欲についても課題が見受けられる。

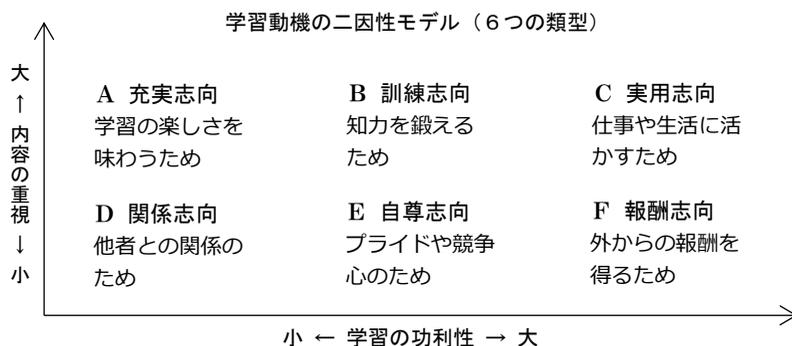
2 生徒の学習動機と学習方法についての意識

先述のとおり、本校生徒は指示されたことについては真面目に取り組む一方で、多くの生徒が「受け身」であり、主体的に学習する意欲や態度、思考力・判断力・表現力等が十分ではないといった課題は「地理歴史科」においても見受けられる。

たとえば、普段の授業におけるワークシートや小テスト・評価問題などにおいて

知識を問うものについては、おおむね満足できる評価を与えることができる。しかし、知識を活用する問題、思考力・判断力・表現力等を問う問題、地図や資料などから読解する問題となると、知識を問う問題に比べて正答・回答率が大きく低下してしまい、途端に「難しい」と感じてしまう。そうした生徒の多くが「覚える＝勉強」と捉えており、良い成績や評価を得るために知識を用語として暗記しているにすぎず、社会的事象の意味や意義、概念等を理解する段階までにはなかなか到達していないものと考えられる。

本研究にあたり、生徒の学習動機・方法や、「地理歴史」を学ぶ意義に対する捉え方についての実態を詳細に把握するため、本校1・2学年の生徒（平成28年度）を対象に「**地理歴史科授業・学習アンケート**」を実施した。ところで市川伸一氏は「学習動機」を次の6つ（**充実志向、訓練志向、実用志向、関係志向、自尊志向、報酬志向**）に類型化している。市川氏は、志向ごとに6つの質問項目を設定し、学習意欲の分析方法を編み出している（市川伸一氏『学ぶ意欲の心理学』2001年、PHP研究所）。



A 「充実志向（学習の楽しさを味わうため）」を測るための質問例

- 「新しいことを知りたいと思う」
- 「いろいろな知識をもった人間になりたいと思う」
- 「わからないことがわかるようになって、勉強はおもしろいと思う」
- 「何かができる（わかる）ようになっていくことは楽しいと思う」
- 「勉強しないと、充実感が得られないと思う」
- 「わからないことを、そのままにしておきたくないと思う」

B 「訓練志向（知力を鍛えるため）」を測るための質問例

- 「勉強することは、頭の訓練になると思う」
- 「学習のしかたを身に付けたいと思う」
- 「勉強すると、合理的で理論的な考え方ができるようになると思う」
- 「勉強することで、いろいろな面からものごとを考えられるようになると思う」
- 「勉強しないと、筋道を立ててものごとを考えることができなくなると思う」
- 「勉強しないと、脳のはたらきが低下すると思う」

C 「実用志向（仕事や生活に活かすため）」を測るための質問例

- 「学んだことを、将来の仕事に生かしたいと思う」
- 「勉強したことは、日常生活のさまざまな場面で役に立つと思う」
- 「勉強で得た知識は、今は役に立たなくとも将来は役に立つと思う」
- 「学習によって得た知識や技能を使う喜びを味わいたいと思う」
- 「勉強しないと、将来の仕事の上で困ると思う」
- 「大人になってから勉強するのでは、もう手遅れだと思う」

D 「関係志向（他者との関係のため）」を測るための質問例

- 「一人より、みんなで勉強するほうが楽しいと思う」
- 「勉強にかぎらず、友だちといっしょに何かをすることは楽しいと思う」
- 「好きな先生に教えてもらおうと、勉強は楽しくなると思う」
- 「周りの人たちが勉強するようになると、自分もよく勉強するようになると思う」
- 「周りの人が勉強しているのに自分がしていないと、恥ずかしいと思う」
- 「勉強しないと、親や先生に対して罪悪感を抱くようになると思う」

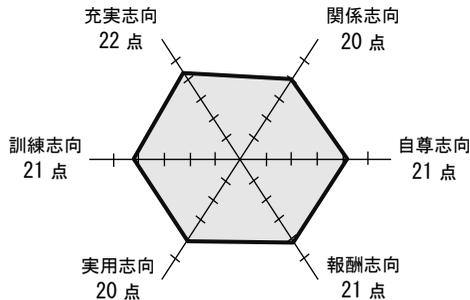
E 「自尊志向（プライドや競争心のため）」を測るための質問例

- 「成績が良いと、優越感が得られると思う」
- 「成績が良ければ、周囲から尊敬されると思う」
- 「ライバルには負けたくないと思う」
- 「立派な大学を出たほうが、立派な人だと思われるのではないかと思う」
- 「テストで平均点より下だったとき、くやしいと思う」
- 「勉強が人並みにできないと、自信が得られないと思う」

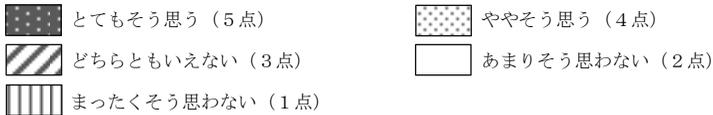
F 「報酬志向（外からの物質的・精神的報酬）」を測るための質問例

- 「テストなどには親や先生から報酬があったほうがよいと思う」
- 「親や先生など、他人にほめられるとうれしいと思う」
- 「学歴が良いほうが、大人になったら経済的に良い生活ができると思う」
- 「学歴が良いほうが、世の中では得だと思ふ」
- 「勉強をしないと、親や先生に叱られると思う」
- 「学歴が悪くないと、大人になっても良い仕事に就けないと思う」

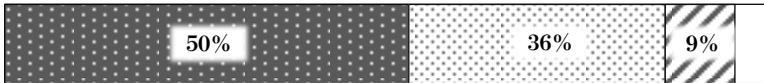
上記に示したとおり、学習動機に関する6つの類型志向を測るための質問例（全36問）をもとに、生徒に対してアンケートを行った。ここでは「とてもそう思う」を5点、「ややそう思う」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまりそう思わない」を2点、「まったくそう思わない」を1点として点数化した。回答した全生徒の平均は次のとおりであった（最低5点，最高30点となる）。



全36問の点数化による平均は、各類型志向とも20～22点の間となり、全体としては高くも低くもない結果となった。同時に類型間の差もほとんど見受けられなかった。類型ごとに個々の質問に関する割合をみると、「何かがわかる（できる）ようになっていくことは楽しいと思う（充実志向）」「親や先生など他人にほめられるとうれしいと思う（報酬志向）」については80%以上の生徒が肯定的に回答している。一方で「勉強しないと筋道を立ててものごとを考えることができなくなると思う（訓練志向）」「学習によって得た知識や技能を使う喜びを味わいたいと思う（実用志向）」「一人よりみんなで勉強するほうが楽しいと思う（関係志向）」「人並みに勉強できないと自信が得られないと思う（自尊志向）」などの質問に肯定的回答した生徒は、40～60%に留まっている。



◇何かがわかる（できる）ようになっていくことは楽しいと思う（充実志向）



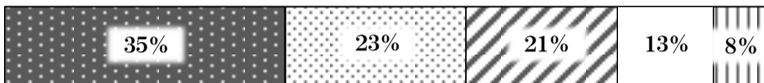
◇勉強しないと筋道を立ててものごとを考えることができなくなると思う（訓練志向）



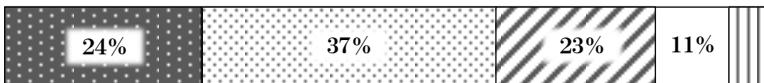
◇学習によって得た知識や技能を「使う喜び」を味わいたいと思う（実用志向）



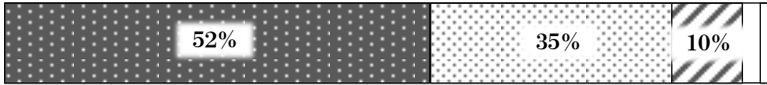
◇一人よりみんなで勉強するほうが楽しいと思う（関係志向）



◇人並みに勉強ができないと自信が得られないと思う（自尊志向）



◇親や先生など他人にほめられるとうれしいと思う (報酬志向)



また、6つの類型志向に基づいた「学習動機の順位付け」を課してみると、次のような結果が得られた。

問 あなたは“どんなとき”に「学習の充実感や満足感」を得ることが出来ますか。次のA～Fの項目について、満足度の高い順に並べてください。

- A 新しい知識や技能を身に付けたとき
- B 良い先生や友だちといっしょに学んだとき
- C 学習で得られた知識や技能を活用したり、何かの役に立ったとき
- D 難しい問題が解けるようになったとき
- E 親や先生にほめてもらったり、友だちからすごいねなどと言われたとき
- F テストや模擬試験などで良い点数を取ったとき

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
F (報酬)	D (訓練)	E (自尊)	C (実用)	B (関係)	A (充実)

これによれば、「テストや模擬試験などで良い点数を取ったとき (報酬志向)」が最上位であったのに対し、「知識を活用したり、役に立ったとき (実用志向)」「良い先生や友だちといっしょに学んだとき (関係志向)」「新しい知識や技能を身に付けたとき (充実志向)」が下位という結果となっている。すなわち本校生徒は、新しい知識を得たり、活用したりする喜びを味わったりすることよりも、テストなどで良い点数を取るために学習する、といった意識傾向が強いものと思われる。

また市川氏は、学習動機に加えて「学習方法」についても次の4つに類型化し(失敗に対する柔軟性、思考過程の重視、方略志向、意味理解志向)、評価する質問法を編み出している。

学習方法の類型

A 「失敗に対する柔軟性 (失敗を恐れず成長・改善する)」を測るための質問例

- ◎「思い通りにならないとき頑張って努力してみようとするほうだ」
- ◎「失敗をくりかえしながらだんだん完全なものにしていけばよいと思う」

- ◎「思い通りにならないときはその原因をつきとめようとする」
- △「人前で間違えたりすると恥ずかしい気持ちになる」
- △「うまくいきそうにないと感じるとやる気がなくなってしまう」
- △「失敗するとすぐにながかりするほうだ」

B 「思考過程の重視（正解よりも考え方を大切に）」を測るための質問例

- ◎「答えよりも考え方が正しかったかのほうが大切だ」
- ◎「問題が解けたあとでも別の解き方をさがしてみることもある」
- ◎「テストで解けなかった問題はあとからでも解き方を知りたいと思う」
- △「なぜそうなるのかわからなくても答えが合っていればよいと思う」
- △「テストでは途中過程よりも答えが合っていたかどうか気になる」
- △「正解のない問題や課題に取り組むことは無意味だと感じる」

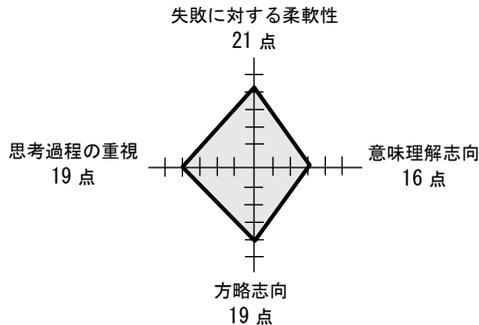
C 「方略志向（学習の仕方を工夫しようとする）」を測るための質問例

- ◎「勉強のしかたをいろいろ工夫してみるのが好きだ」
- ◎「成功した人の勉強法について興味がある」
- ◎「勉強時間（量）よりも勉強方法（質）のほうが重要だと思う」
- △「勉強の方法を変えても効果はあがらないと思う」
- △「学習スタイルは自己流でよく他者に学ぶつもりはない」
- △「成績を上げるためにはとにかく努力してたくさん勉強するしかないと思う」

D 「意味理解志向（丸暗記ではなく意味を理解する）」を測るための質問例

- ◎「ただ暗記するのではなく意味を理解するようにしている」
 - ◎「習ったことどうしの関連をつかむようにしている」
 - ◎「図や表で整理しながら勉強するようにしている」
 - △「数学の勉強では公式をおぼえることが大切だと思う」
 - △「同じパターンの問題を何度でもくりかえし解くことが大切だ」
 - △「なぜそうなるかはあまり考えず答えを暗記してしまうことが多い」
- ◎…「とてもそう思う」5点, 「ややそう思う」4点, 「どちらともいえない」3点,
「あまりそう思わない」2点, 「そう思わない」1点
- △…「とてもそう思う」1点, 「ややそう思う」2点, 「どちらともいえない」3点,
「あまりそう思わない」4点, 「そう思わない」5点

上記に示したとおり学習方法に関する4つの類型を評価するための質問例（全24問）をもとに生徒にアンケートを行い点数化したところ、回答した全生徒の平均は次のとおりであった（最低5点，最高30点となる）。

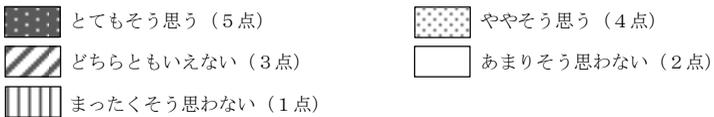


この結果では、「失敗に対する柔軟性」「思考過程の重視」「方略志向」が19～21点と大きな差異はなかったが、丸暗記ではなく意味を理解しようとする「意味理解志向」は16点とやや低い結果となった。

はじめに「失敗に対する柔軟性」では、「思い通りにならないとき頑張って努力してみようとするほうだ」という質問に肯定的回答をした生徒が61%であった一方で、「うまくいきそうにないと感じるとやる気がなくなってしまう」については73%の生徒が肯定している。

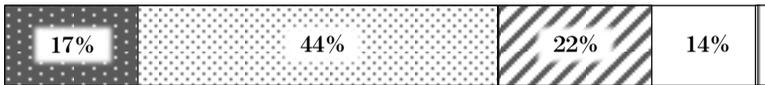
つぎに、答え（正解）よりも答えを導き出す思考の過程を重視しようとする「思考過程の重視」では、「テストでは途中過程よりも答えが合っていたかどうか気になる」という質問に肯定的回答をした生徒が64%であった一方で、「正解のない問題や課題に取り組むことは無意味だと感じる」に37%の生徒が肯定しているほか、肯定でも否定でもない中間層が39%、否定的回答をした生徒は24%にとどまった。

同様に、学習の仕方を工夫するなど学びの質について重視する「方略志向」についての質問では、「勉強時間（量）よりも勉強方法（質）のほうが重要だと思う」に75%の生徒が肯定的回答したものの、「勉強のしかたをいろいろ工夫してみるのが好きだ」については29%と低い結果となった。



《失敗に対する柔軟性》

◇思い通りにならないとき頑張って努力してみようとするほうだ



◇うまくいきそうにないと感じるとやる気がなくなってしまう



《思考過程の重視》

◇テストでは途中過程よりも答えが合っていたかどうか気になる。



◇正解のない問題や課題に取り組むことは無意味だと感じる

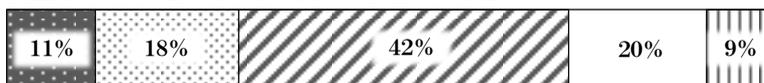


《方略志向》

◇勉強時間（量）よりも勉強方法（質）のほうが重要だと思う



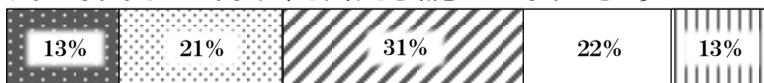
◇勉強のしかたをいろいろ工夫してみるのが好きだ



一方で、他の類型よりも低い結果となった「意味理解志向」では、「なぜそうなるかあまり考えず、答えを暗記してしまうことが多い」という質問に34%の生徒が肯定している。また「図や表で整理しながら勉強するようにしている」に肯定的回答を示した生徒は35%、「習ったことどうしの関連をつかむようにしている」も36%と、いずれも4割に満たない結果となった。

《意味理解志向》

◇なぜそうなるかはあまり考えず答えを暗記してしまうことが多い



◇図や表で整理しながら勉強するようにしている



◇習ったことどうしの関連をつかむようにしている



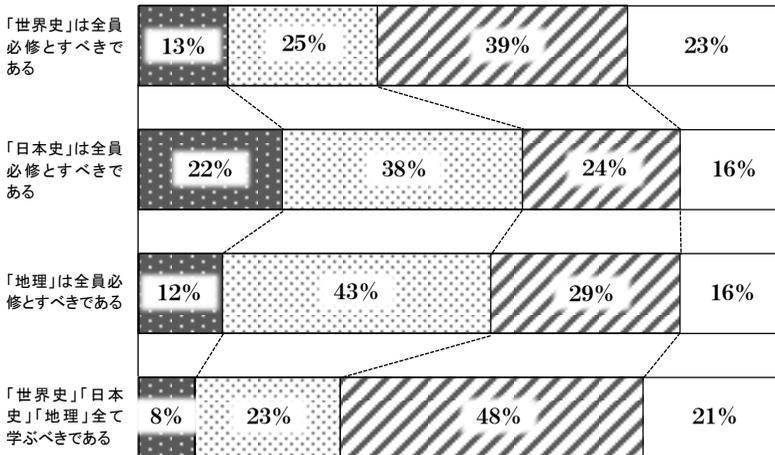
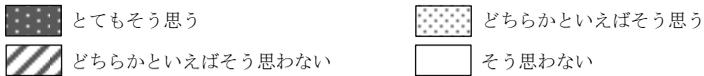
このことから、多くの生徒は「丸暗記ではいけない」とのタテマエはわかっているものの、学習したことを図表にまとめたり、学習したことどうしを関連付けて横断的に考えたりすることの意識や経験が不足していることが課題として挙げられる。このことが、知識を習得しても“テストのため”といった一時的なものであり、

知識の活用力に乏しいこと、思考力・判断力・表現力等が十分ではないことにつながっているのではないかと考えられる。

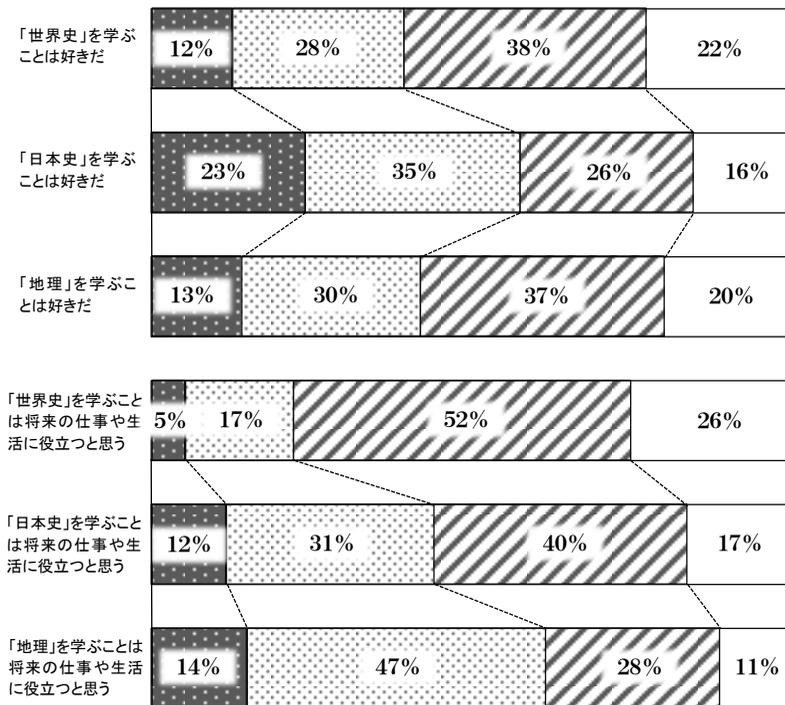
3 地理歴史の教育課程（カリキュラム）や授業等に対する生徒の意識

本校では、1年次に「世界史A」を必修としており、2年次に「日本史A」または「地理A」のいずれかを選択必修する。さらに文系の生徒は3年次に「世界史B」「日本史B」「地理B」を選択することができるが、基本的に2年次に「日本史A」を選択した生徒は「地理」を学ばないことになり、「地理A」を選択した生徒は「日本史」を学ばないこととなる。

はじめに、「世界史」「日本史」「地理」それぞれについて「必修とすべきか」質問したところ、「日本史」と「地理」については過半数以上の生徒が肯定的に回答したが、「世界史」については若干ながら過半数を下回る結果となった。また、「高校では世界史・日本史・地理のすべてを学ぶべきか」についての肯定的回答は31%となっており、多くの生徒は3科目すべてを学ぶ必要はないと捉えていることがわかる。

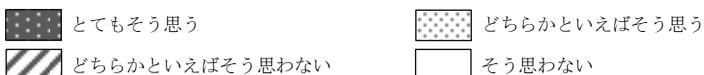


つぎに、「世界史」「日本史」「地理」の各科目について「学ぶことが好きか」と「将来の仕事や生活に役立つと思うか」を質問したところ、次のような結果となった。



この結果によれば、「日本史を学ぶのが好きだ」に肯定的回答を示した生徒が58%であるのに対し、「世界史」「地理」では40%程度となっている。また「世界史を学ぶことは将来の仕事や生活に役立つと思う」について肯定的に答えた生徒は22%と低い割合となっており、「日本史」の43%、「地理」の61%を下回っている。このことから「世界史」を学ぶ意義については、「日本史」や「地理」に比べて深まっていないことがうかがえる。

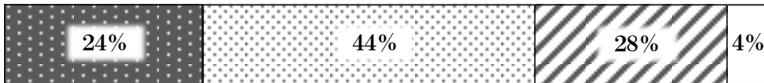
一方で授業スタイルについては、これまでの社会科の授業（中学校校までを含む）で主体的・協働的な学習（ペアワークやグループ活動、話し合い、討論など）をよく経験したと回答した生徒は全体の5%であり、全体として「社会科の授業＝講義形式が中心」といったイメージは根強くある。



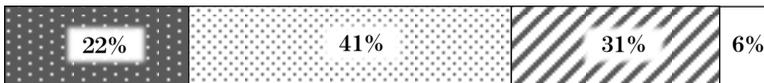
◇あなたがこれまで受けてきた社会（地理歴史・公民）科の授業において、ペアワークやグループ学習、話し合いや発表をしたことがありますか



◇受験を意識して、教科書の内容をすみずみまできちんと消化してほしい



◇できるだけ生徒の発言を取り入れて、活気のある授業にしてほしい



◇グループ学習やペアワークなどの時間を積極的に取り入れてほしい



◇騒がしくなるのは苦痛なので、講義中心でよいから静かな環境で授業を受けたい



主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）に対する否定的な意見として、「教科書消化や受験指導（授業の効率化）のためにはさほど時間をかけられない」「なかなか生徒が積極的かつ意欲的に取り組まない（活発に発言しづらい）」などといった声もある。しかし本校生徒については、必ずしも「講義中心がよい」とばかり感じているわけではなく、適度に配分バランスを保ったうえで主体的・協働的な学習の場面を取り入れること自体は好意的に捉えているのではないかと考えられる。

4 評価問題（ペーパーテスト）の結果より

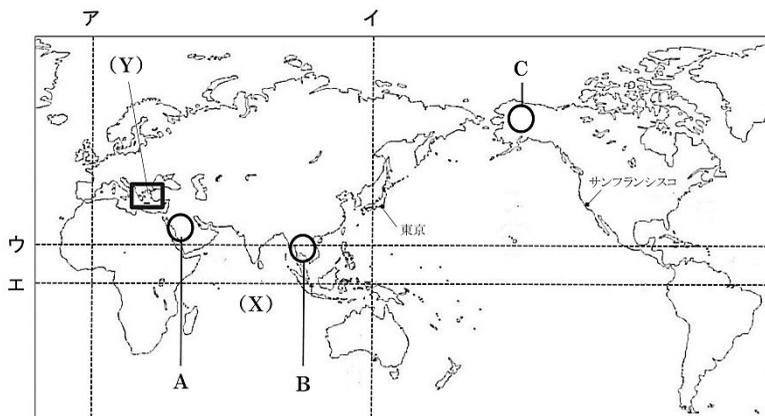
ここでは、1年「世界史A」における「前期中間考査（平成28年6月初旬実施）」の結果から課題を見出していきたい。評価問題は必ずしも「知識・理解」を中心とするものでなく、地図や史料等の読解・活用、思考力・判断力・表現力等を問うものなど、出題形式についてのバランスを考慮した。また出題内容も「世界史」の内

容にかぎらず、授業で適宜触れてきた「日本史との関連」や「地理との関連」を踏まえた横断的な問題とした。

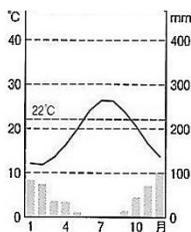
次に掲げる大問①は、科目の導入にあたる「自然環境と歴史」をもとに「世界の自然環境と地図の読み方」についての基本とともに、古代中国を題材に、自然環境と歴史との関連について出題したものである。

大問① 世界の自然環境と地図の読み方

I 次の世界地図を参照し、問1～問5の設問に回答せよ。



- 問1 経線0度と緯線0度を上記の地図中ア～エよりおのおの記号で選べ。
- 問2 上記の地図には世界六大陸の「ある大陸」がえがかれていないが、その大陸は何か。また、地図中(X)は三大洋の一つであるが、何洋というか。
- 問3 地図中(Y)の地域における自然環境と生活・歴史とのかかわりについて、次の雨温図と写真を参照し、後の問いに答えよ。



- (1) この地域における気候の特色について雨温図から読み取り、空欄 **あ** に適当な気候帯を、 **い** には降水量の特色について言葉を入れて文を完成させよ。

年間の気温の推移からみると、気候帯は「 **あ** 」であるが、年間の降水量の変化については「 **い** 」という特色がある。

《気候帯の語群》 熱帯, 亜熱帯, 温帯, 冷帯, 寒帯,

- (2) (1)の気候の特色を踏まえ、写真のような建物が多いのはどうか。建物の特色も明らかにしながら、その理由について説明せよ。
- (3) この地域における歴史や文明について述べた次の①～④の各文うち、最も適当と思われるものの番号を一つ選べ。(知識としてではなく、上記の情報から推測・判断して考えよう)

- ① 古くから大河流域でムギの栽培がはじまり、強力な王権が存在していた。
- ② 大規模な森林が広がっており、農地を獲得するため古くから開墾がすすんだ。
- ③ 平地が少ないため穀物栽培に適さず、古くから海上貿易がさかんに行われてきた。
- ④ 古くから稲作が発達し、余剰生産物をめぐる争いが絶えず続いていた。

問4 地図中A～Cの地域における住居や生活の特色について述べた文を、次のア～ウより正しく選んだ組合せは後の①～⑥のうちどれか。番号で一つ選べ。

- ア 湿気が高く風通しをよくするために、高床式の住居がみられる。
- イ 冬の狩猟用の住居として、氷や雪を固めてつくった半地下式の住居が利用される。
- ウ 砂嵐が住居内に入るのを防ぐため、窓が小さくなっている。

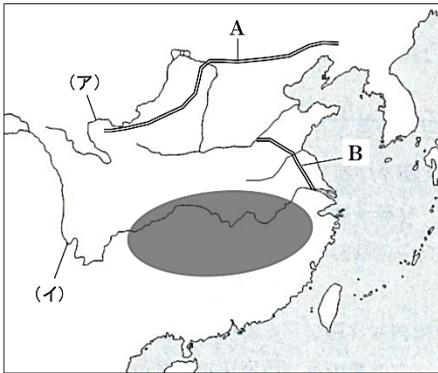
	①	②	③	④	⑤	⑥
A	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
B	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
C	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

問5 球面の地球を正確に平面上に描くことはできない。したがって、世界地図にはさまざまな図法がある。Iの地図について述べた次のa・bの各文における正誤の組合せとして最も適当なものを、後の①～④より番号で選べ。

- a 高緯度ほど大きく描かれているため、この地図から正しい面積や形を判断することはできない。
- b 正しく方位が描かれており、東京からみてサンフランシスコは真東にある。

- ① a－正 b－正
- ② a－正 b－誤
- ③ a－誤 b－正
- ④ a－誤 b－誤

II 次の東アジアの地図と写真を参照し、問6～問9の設定に回答せよ。



Aの写真



Bの写真



問6 地図中の(ア)・(イ)の河川名をおのおの答えよ。

問7 地図中のA(Aの写真)は、秦の始皇帝が修築した万里の長城を模式的に示したものである(ただし写真は現在のものであり当時のものではない)。この長城によって仕切られた北側と南側に住む人々との“生業のちがいがい”について、地形や気候などの地理的要因を踏まえ、簡潔に説明せよ。

※「生業」… 農耕・遊牧・狩猟など、生活を営むための主要な仕事。

問8 地図中のB(Bの写真)について述べた次の文章を参照し、空欄 にふさわしい語句を後の①～④より番号を選び、かつ に入る語句を漢字3字で答えよ。

これは の時代に土木事業によって建設された であり、南北朝時代に開発のすすんだ江南地方と河北とを結び付ける、中国史上はじめての南北の交通幹線となった。しかし、これらの土木事業に徴発された農民たちは大きく困窮した。

- | | |
|--------|--------|
| ① 隋の文帝 | ② 隋の煬帝 |
| ③ 唐の太宗 | ④ 唐の高宗 |

問9 地図中の の地帯に建国された王朝の歴史について述べた次のI～IIIの出来事について、年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥より番号で選べ。

- I 晋の一族により、東晋が建国された。
- II 戦国の七雄の一つである楚が建国された。
- III 10あまりの国が興亡し、五代十国とよばれた。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| ① I - II - III, | ② I - III - II, | ③ II - I - III, |
| ④ II - III - I, | ⑤ III - I - II, | ⑥ III - II - I, |

上記の設問は、学習指導要領の「歴史の舞台と自然環境について、河川、海洋、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地図や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる」に照らしたものである。このうち、万里の長城によって区切られた北側と南側に住む人々との生業のちがいを地形や気候など地理的要因によって説明する問7の設問は、正答率が30.9%（中間点は39.7%）となった。

また大問④では、前漢から魏晋南北朝時代の中国史に関連して、中国の歴史書や高句麗の「好太王碑文」などの史料から日中・日朝関係史について冊封体制を基軸に捉えさせる問題を出題した。『漢書』地理志・『後漢書』東夷伝・『魏志』倭人伝の倭に関する記事から「朝貢・冊封関係」について読み取る問6の設問のうち、(4)に対する正答率は23.5%（中間点は42.6%）、「好太王碑文」に刻まれた史料情報から、当時のヤマト政権と高句麗・百済・新羅との関係について読解する問7の設問に対する正答率は20.6%と低かった。

大問④ 史料から読み解く中国史

問6 次のⅠ～Ⅲの史料は、いずれも中国の歴史書に記された地図Ⅱ中のP国に関する記述である。これを参照し、後の(1)～(4)の問いに答えよ。

- Ⅰ 夫れ **ア** 海中に倭人有り。分れて百余国と為る。
 (『④漢書』地理志)
- Ⅱ 建武中元二年※1、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。 **イ**、賜ふに**⑥印綬**※2を以てす。
 (『後漢書』東夷伝)
- Ⅲ 景初二年※2六月、**⑤倭の女王**、大夫難升米等を遣はし郡に詣り、天子に詣りて朝獻せんことを求む。……其の年十二月、詔書して倭の女王に報じて曰く、「…今汝を以て親魏倭王と為し、金印紫綬を仮し……
 (『魏志』倭人伝)

※1「建武中元二年」… 57年のこと。 ※2「印綬」… 漢委奴国王と刻まれていた。
 ※3「景初二年」… 239年のこと。

(4) 上記のⅡ・Ⅲの史料から、倭の国王が“中国王朝の冊封体制下に入っていた”ことが読み取れるが、冊封とはどういうことか。史料を参考に「朝貢」の語句を用いて簡潔に説明せよ。

正解 (○)	中間点 (△)	不正解 (×)
23.5%	42.6%	33.8%

問7 次の史料は、地図Ⅱのaに所在する「ある王」の事績を記した石碑に刻まれた文の一部である。これを参照し、後の(1)・(2)の問いに答えよ。(史料は一部改変している)

百残※1・新羅は旧是れ属民にして、由来朝貢す。而るに倭※2、辛卯の年※3よりこのかた、海を渡り、百残・新羅を破り、以て臣民と為す※4。……百残誓に違ひ、倭と和を通ず。而して新羅、使を遣はして王に云く、「倭人その国境に満ち、城を潰破す……」……(王は)歩騎五万を遣はし、往きて新羅を救はしむ。

※1「百残」… 百済のこと。 ※2「倭」… 当時はヤマト政権。
 ※3「辛卯の年」… 391年のこと。 ※4「臣民と為す」… 征服する。

(2) この史料から読み取れることとして適当でないものを、次の①～④より番号で選べ。

- ① 百済や新羅は、もともと高句麗に対し朝貢していた。
- ② ヤマト政権は朝鮮に進出し、百済や新羅を征服した。
- ③ ヤマト政権は百済と和を通じたが、新羅は高句麗を頼った。
- ④ 高句麗とヤマト政権が交戦することはなかった。

正解 (○)	不正解 (×)
20.6%	79.4%

さらに大問④では、隋唐帝国から宋時代の中国史と日本史とを年表によって対比させ、遣隋使・遣唐使などを通じて中国の制度・文化が日本に移入されていった過程と影響について出題した。

学習指導要領においては、内容(1)「世界史へのいざない」における「イ 日本列島の中の世界の歴史」のなかで、「日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる」とある※1。ここでは、中学校社会科歴史的分野での既習事項をもとに、隋・唐帝国の成立と衰退に関する基本的知識に加え、日本が唐の政治制度や文化を取り入れることで国家体制の整備を進めたことをはじめとする日中・日朝間の人的・物的交流について、多面的・多角的に考察する力を問うた。

このうち、日本文化に対する中国文化等の影響について時期に着目して考えさせる問5の設問については、正答率が25.0%（無回答8.8%）と低い結果となった。

※1 内容の取扱いについては、中学校社会科の内容との連続性に配慮して主題を設定するとともに、適切な時期に実施するようにすることとなっている。

大問④ 隋唐帝国・宋時代の中国と日本

I 以下は隋・唐・宋の時代の中国と日本の歴史に関する年表である。後の設問に回答せよ。

	皇帝名	歴史的事項	日本における歴史的事項
隋	文帝	589 陳を滅ぼし中国を統一する	607 b <u>最初の遣隋使</u> が派遣される
	煬帝	612 1 遠征するが、失敗	
唐	高祖	618 唐を建国する	630 最初の c <u>遣唐使</u> が派遣される
	2	唐の律令体制が確立する 624 均田制・租調庸制を実施 626 府兵制を実施する	645 大化改新が起こる
	高宗	唐の版図が最大となる a <u>朝鮮半島</u> に進出する	701 大宝律令が制定される
	3	690～705 国号を周とする	710 d <u>平城京</u> が完成する
	玄宗	723 府兵制にかわり 4 を実施 742 節度使に辺境防備させる 晩年になると 5 を寵愛する 755 政治に不満をもった 6 ら の反乱が起こるが 7 の援 軍を得て鎮圧する 節度使の自立化がはじまる	(Y)
	徳宗	780 租調庸にかわり 8 を実施	794 e <u>平安京</u> が完成する
武宗	875 塩の専売に反対した 9 ら が反乱を起こす 907 節度使の 10 が唐を滅ぼし 後梁を建て	894 遣唐使が廃止される	
宋	太祖	960 11 が宋を建国する	(Z)
	神宗	1069 c <u>王安石の改革</u> が始まる	1086 白河天皇が院政を開始する。
	徽宗	1126 12 の変により、皇帝と 上皇が捕えられ、宋が滅亡。	1167 平清盛が太政大臣となる

問1 年表中の空欄 **1** ～ **12** にふさわしい語句をおのおの次から記号で選べ。

- | | | | | |
|---------|---------|----------|---------|----------|
| ア) 楊貴妃, | イ) 玄奘, | ウ) 高句麗, | エ) 靖康, | オ) 趙匡胤, |
| カ) 朱全忠, | キ) 募兵制, | ク) ウイグル, | ケ) 兩税法, | コ) 則天武后, |
| サ) 太宗, | シ) 黄巢, | ス) 李淵, | セ) 安祿山, | ソ) キルギス, |

問2 下線部 a とあるが、唐の朝鮮進出によって征服された百済を救援するために、倭（日本）は663年に軍隊を派遣するが、この戦いを何というか。

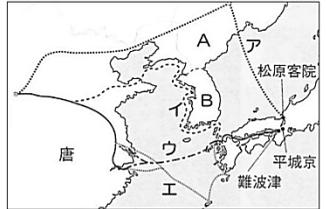
問3 下線部 b・c に関連した次の史料と地図を参照し、後の(1)～(5)の問いに答えよ。

大業三年※1、其の王多利思比孤、㉞使を遣して朝貢す。……其の国書に曰く「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」…帝※2、㉟之を覽て悦ばず……

（『隋書』倭国伝）

※1 「大業三年」… 607年のこと。

※2 「帝」… 隋の煬帝のこと。



- (1) 下線部㉞の「使」は誰のことをさしているか、人名を答えよ。
- (2) 下線部㉟について、煬帝が倭（日本）の国書に対して不快感を示したのはどうしてか。国書の内容を参考に、簡潔に説明せよ。
- (3) 地図中のA・Bにふさわしい国名を、おのおの後の《語群》から選び、記入せよ。

Aは日本と通交があり、松原客院にはAの使節が来航した。

Bは7世紀に半島を統一し、日本とも通交はあったが、やがて関係が悪化した。

《語群》 新羅、吐蕃、加羅、渤海、馬韓、

- (4) 右の像は、たびたびの渡航の失敗にも屈せず日本に渡来し、律宗を伝え日本仏教の発展に貢献した唐僧であるが、人物名を答えよ。また、そのときの航路は、A・イを通る「北路」と、ウ・エを通る「南路」のどちらであったと考えられるか。



問4 下線部 d・eの都城はいずれも“唐の都”にならって造営されたものである。この都の名を答え、かつ、この都市に関連して述べた次のア～エの各文のうち、正しい文の組合せとして適当なものを、後の①～④より番号で選べ。

ア 唐僧の義浄は海路でインドに赴き、帰国後『大唐西域記』を著した。

イ 遣唐使としてこの都に赴いた空海は、帰国後に真言宗を開いた。

ウ 西方との交流によりイスラーム教が伝わった。

エ 西方とさかんに交流したが、キリスト教が伝わることはなかった。

① ア・ウ、 ② ア・エ、 ③ イ・ウ、 ④ イ・エ、

問5 年表中の (X) ~ (Z) の時期における日本の文化について説明したものを、次の a ~ c より正しく選んだ組合せとして適当なものを、後の①~⑥より番号で選べ。

- a 仮名文字などに代表される日本独特の文化が栄えた。
- b 国際的な唐文化の影響を受けた文化が栄えた。
- c 日本で最初の仏教文化が栄え、豪族たちが寺院を建立した。

	①	②	③	④	⑤	⑥
(X)	a	a	b	b	c	c
(Y)	b	c	a	c	a	b
(Z)	c	b	c	a	b	a

問6 唐と宋の時代の国家体制について述べた次のア・イの下線部の語句における正誤の組合せとして適当なものを、後の①~④より番号で選べ。

- ア 唐は三省六部を設置し、詔勅の草案は「門下省」が作成した。
- イ 宋では、皇帝みずから最終面接を行う「殿試」が開始された。

- ① アー正 イー正
- ② アー正 イー誤
- ③ アー誤 イー正
- ④ アー誤 イー誤

問7 隋唐時代に整えられた「律令体制」は倭（日本）にも導入されたが、このことに関連して述べた次の文章中の空欄（ ① ）・（ ② ）におのおの適語を入れよ。

倭（日本）においても、年表中の「大化改新」において（ ① ）が原則とされ、豪族たちが所有していた私有地や私有民はすべて公有とされた。そして、6歳以上の男女に口分田が支給され、死後返還するという「班田収授法」が実施されたのである。とはいえ、農民の負担は決して軽いものとはいえず、浮浪や逃亡があいついだほか、人口が増加してくると口分田の支給も追いつかず、自ら開墾した田地である「墾田」が増加していった。そして743年には墾田（ ② ）法が出されて墾田の永久所有が認められ、8世紀には早くも（ ① ）の理念が崩れ始めたのである。

隋・唐の時代に整えられた「均田制」がなぜ始まったのか、なぜうまくいかなかったのか——日本の歴史においても共通項が見い出せるのではなかろうか。

以上のように、「地理との関連」が深い設問（大問①）と「日本史との関連」が深い設問（大問③・④）の平均点は次のとおりである。

「地理との関連」が深い設問（大問①）の得点（配点17）

平均点	最高点	最低点
12.0点（得点率70.1%）	17点	1点

「日本史との関連」が深い設問（大問③・④）の得点（配点27）

平均点	最高点	最低点
11.8点（得点率43.7%）	20点	4点

「地理との関連」が深い設問については、配点17のうち平均点は12.0点と得点率が70.1%であったのに対し、「日本史との関連」が深い設問については、配点27のうち平均点が11.8点と得点率が50%を下回る結果となった。

5 研究課題の設定

以上のとおり、本校「地理歴史科」における生徒の意識や学力について、アンケートや評価問題等から検証してきた。これをもとに、あらためて本校生徒の実態と課題について列挙すると、次のとおりとなる。

- (1) 「テストで高得点を取る（良い評価や成績を得る）」や「受験のため」といった、目先の外発的動機に基づく学習志向が強く、現代世界に対する課題意識を高めて追究したり、新しい知識を得て活用したりしようとする意欲に乏しい。
- (2) 生徒の学習が「用語を覚えること」でとどまっており、社会的事象の意味や意義、概念等を十分に捉えているとは言い難い。
- (3) 知識を活用したり、諸資料からの情報を読解したりする力、思考力・判断力・表現力等が十分ではない。
- (4) 特に「世界史」に対する苦手意識が強く、学習意欲や学習事項の定着度が「日本史」や「地理」に比べて低い。
- (5) これまでの「地理歴史科」の授業では、科目相互の連携が不十分であり、1年次の「世界史」で学んだことを2年次の「日本史」や「地理」の学習に活かしたり、1年次の「世界史」において自然環境とのかかわりや日本史との関連から考察したりするなどの場面が少ない。
- (6) 主体的に学習する意欲や態度を高めさせるために、家庭での学習習慣の確立をはじめ、主体的・対話的で深い学びの実現や言語活動の充実を図るなど授業改善の必要がある。

このような課題を踏まえ、本研究における本校の「研究主題」及び「研究仮説」を次のように定めた。

地理歴史科（世界史・日本史・地理）における科目相互の連携を図った授業実践の研究

《研究仮説》地理歴史科（世界史・日本史・地理）における科目相互の連携を図り、社会的事象の意味や意義、概念等を他科目と関連付けて総合的に捉えさせることで、地理歴史についての学習意欲や学力をより向上させることができるのではないかと。

上記に掲げた「研究主題」のもと、本研究では、各科目で習得した知識や概念を活用したり、科目相互の関連性を踏まえて考察したりする学習活動を通して、歴史的な見方・考え方、地理的な見方・考え方を育成するとともに、生徒の学習意欲を向上させ、思考力・判断力・表現力等を高めさせることをねらいとしている。

具体的な研究内容と成果の検証については、次章以降に報告する。



本校で実施した国立教育政策研究所調査官を招いた研究授業・研究協議会の様子（平成 29 年 7 月）